

セミナー報告

公開セミナー「太陽光発電の自主簡易アセス」

■実施趣旨

NPO地域づくり工房では、中小規模の開発事業等における自主的な環境配慮の取組みを支援するため、自主簡易アセス支援ツールの開発を進めています。この間、本会法人会員である株式会社フォーラムエイト様及び一般財団法人最先端表現技術利用推進協会のご協力を頂いて、「自主簡易アセス支援サイト」と関連するソフトを開発しています。

その中で、太陽光発電所計画についての自主簡易アセスの事例を3件取組みました。また、そこでの必要から、太陽光パネルからの反射光をシミュレーションするソフトを開発しました。

各地で太陽光発電所をめぐるトラブルが多発しており、長野県では環境影響評価条例を改正して太陽光発電所を対象とする議案を9月議会に提出することが予定されています。そこで、本会の太陽光発電所の自主簡易アセスの実践と開発ソフトを紹介するセミナーを開催しました。

なお、本セミナーには、長野県環境政策課より環境アセス担当者が参加して下さい、他の参加者からの質問に丁寧に対応して下さいました。

■実施概要

開催日：2015年7月30日（木） 午後3時～5時

会場：松本勤労者福祉センター（長野県松本市中央4-7-26）

出席者：19名（自治体職員、アセスコンサルティング会社、太陽光発電事業者、議員、環境カウンセラー、住民運動関係者など）

講師：傘木宏夫（NPO地域づくり工房代表理事、環境アセスメント学会常務理事）

主催：NPO地域づくり工房

助成元：独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」（平成27年度）

■主な質問など

Q：反射光の簡易シミュレーションは公開されているのか？

A：WEB上に公開しており、誰もが数値を入れて、シミュレーションできる。

Q：反射光が直近の道路の通行に影響がある可能性があるとはどういうことか？

A：春分から秋分の間、太陽が東西より北側から日の出・日の入する場合は、太陽光は南側の低い場所に反射する。それが直近の道路を通過する自動車の運転手の視野に入る場合がある。

Q：反射光以外に市街地での太陽光発電所計画で留意すべきことは？

A：工事に伴う騒音や工事車両の影響、稼働後はパワーコンディショナーからの電波障害など。

Q：里山などでの開発で留意すべきことは？

A：土地の造成が伴う場合は土砂の流出やそれに伴う生態系への影響がある。多くの場合、農村景観との調和が問題になっている。

Q：県条例改正案は20ha以上を対象にするというが、それ以下への対策は？

A：自主的な取組みに委ねるしかないが、池田町の事例のように自治体での誘導が大切だ。

Q：2つの事例の受託費で行ったのか？

A：それぞれ80万円

以上

